

研究活動一覽

「研究活動一覽」は、当研究所員の研究活動と研究内容や関心分野を、読者の皆様に提供することを目的としています。研究内容の詳細につきましては、直接担当研究員までお問い合わせください。

① 研究論文および雑誌記事等

著者名（共著者を含む）	表 題	発表誌等 (単行本の場合は発行所名も記入)	巻・号	発表年月
上林篤幸	「新型コロナウイルス」と中国の食文化（－「USDA（2029年農業見通し）」の概要－）	製粉振興	No.606	2020.5
安部晃司 北恵実 中谷朋昭 村上智明 伊藤暢宏 中嶋康博	食事準備にかかる手間と食の価値認識 －大規模データによる分類とBest-Worst Scalingによる比較－	日本フードシステム学会 2020年度大会 個別報告要旨集		2020.6
八木浩平 高橋克也 葉師寺哲郎 伊藤暢宏	多様な中食消費と個人特性、食品群・栄養素摂取の関係 －カテゴリカル構造方程式モデリングによる分析－	農林水産政策研究	第32号	2020.6
吉田真悟	都市近郊農業経営の多角化プロセスと経営発展の相互関係	農林水産政策研究	第32号	2020.6
佐藤彩生	「農泊」地域における「地域アイデンティティ」の担保と利益還元に関する一考察 －岐阜県中津川市加子母地区を対象として－	2020年度大会学術講演梗概集（日本建築学会）		2020.7
古橋元	2029年における世界の食料需給見通し	農林水産政策研究所レビュー	No.96	2020.7
長友謙治	質も量も：ロシアの農産物輸出促進と政策の基本方向	農林水産政策研究所レビュー	No.96	2020.7
小柴有理江	ローカルフードシステムに関する近年の研究動向	農林水産政策研究所レビュー	No.96	2020.7

大橋めぐみ	『フードシステムと日本農業』新山陽子編著 ブックレビュー	農林水産政策研究所レビュー	No.96	2020.7
竹西亜古・横山須美 竹西正典・高橋克也 若城康伸・金川智恵	医療被ばくに関するリスク情報の記憶 ーWebサイトにおける再認テストを用いた実験研究ー	保健物理	第55巻2号	2020.8
内藤恵久	はじめに	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8
内藤恵久 大橋めぐみ 飯田恭子 八木浩平 菊島良介	地理的表示保護制度への登録の効果及び今後の課題 ー登録製品のアンケート調査による分析ー	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8
八木浩平 大橋めぐみ 高橋祐一郎 菊島良介 内藤恵久	地域ブランド製品に対するブランド保護制度への期待と効果	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8
八木浩平 菊島良介 大橋めぐみ 内藤恵久	地理的表示保護制度に対する小売店バイヤーの認知と評価	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8
菊島良介 伊藤暢宏 内藤恵久 大橋めぐみ 八木浩平	消費者の認証制度等に対する認知と評価	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8
八木浩平 菊島良介	農産物ブランドに対する購買行動の規定要因 ー『地域ブランド戦略サーベイ(名産品編)』の分析ー	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8
大橋めぐみ 大呂興平 飯田恭子 内藤恵久 八木浩平	地域ブランド化の和牛肥育経営体への効果 ー農林業センサス個票データを用いた分析よりー	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8
内藤恵久	おわりに	需要拡大プロジェクト【高付加価値化】研究資料 地域ブランド活用による高付加価値化の取組と今後の展開 ー地理的表示等の活用と消費者評価ー	第1号	2020.8

② 口頭発表および講演

講演者	講演演題	講演会名（主催者）	講演開催年月日
桑原田 智之	英国の対外通商交渉と規制・基準	青山学院大学経済学部	2020年7月14日
桑原田 智之	英国の自動車産業	青山学院大学経済学部	2020年7月21日
桑原田 智之	英国の国内経済(医療・住宅・教育)	青山学院大学経済学部	2020年7月28日
桑原田 智之	英国の食料安全保障、農業	青山学院大学経済学部	2020年8月11日
佐藤彩生	「農泊」地域における「地域アイデンティティ」の担保と利益還元に関する一考察 — 岐阜県中津川市加子母地区を対象として —	2020年度日本建築学会都市計画部門オーガナイズドセッション研究交流会（持続可能な観光地形成小委員会）	2020年9月9日

編集後記

本号及び前号の「研究成果」コーナーでは、水産物輸出について取り上げました。「令和元年度水産白書」によると、水産物輸出品目1位はホタテガイ、2位は真珠、3位がブリとなります（輸出額ベース）。この度、2号続けて掲載した養殖ブリについては、脂質の多い魚を好む米国での消費が伸びています。「どんな料理で食べるのかしら？ ローストとか？」と調べてみたら、日本食レストランなどで提供される寿司、刺身といった生食が中心だそうです。

本号が刊行される頃には、日本でも寒ブリの季節です。お正月料理にブリを使う方も多いでしょう。太平洋の向こうのブリ料理に思いを馳せつつ、私もブリの照り焼きなど作ることにします。

（担当：H）